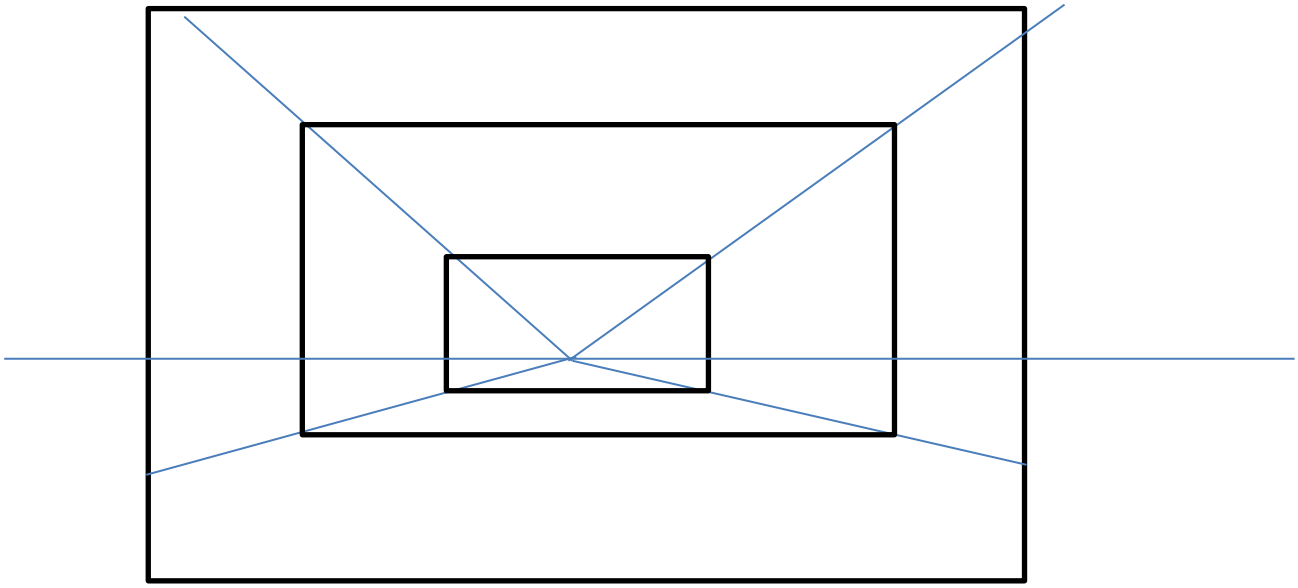
３分間スケッチ　　太田　宏

はじめに

１．道具・・スケッチブック（F4・・24x33cm か F8・・24x17cm　マルマン　Art spiral　F4 S314　net で 567 円)、鉛筆類(B6～B8)、消しゴム、絵具(固形水彩絵具デーラーラウニ(Dailer Rowney)、透明水彩ホルベイン　Water ColorHWC18　HWC30　等　水彩色鉛筆(Water Color Pencil　ファーバーカステル(Faber-Castell))、不透明水彩(ホルベイン Gouache ガッシュ白黒赤青黄)、パレット、水入れ、筆（数種類）

２．構図を決める



目の高さ（中央の横線)、消失点（上図で中央で交わっている点）を決めると景色が描きやすく、失敗しない。見ていて安心。逆にこれを破ろうとする現代アートがある。

新宿御苑・・2006. 11

新宿御苑・・2011.4

こういう線を描くときには長めの鉛筆が
重宝

新宿御苑・・

３．ドローイング　　鉛筆でスケッチ

プロは、２Ｈなどの極薄の線で設計図のように詳細に描くが、ここでは最も柔らかい８Ｂを使ってごく滑らかに筆を滑らせていく。補助線をどんどん入れて書いてもよし。あとで消そう。

目の高さの位置をまず画用紙に引く。（薄く）そこが上下の境界となる。

景観から消失点を探す。（上下左右奥行の３点があるはず）直線の多い景観では、長い鉛筆が役立つ。景色に鉛筆をあてがい消失点を探す。

断捨離。景観のうちから主要なもの、描きたいものを抜き取り、あとはあっさり捨て去る。写真ではない。印象を描こう。

お寺の屋根、欄干の複雑な形状、木や、花などは丹念に描いていると日が暮れる。「らしさ」が出れば十分。筆で彩色する時に工夫するだけで屋根らしく、欄干らしくなり、木や、花が出来上がる。ただしボタニカルアート(植物画)などは２Ｈなどの固い鉛筆で詳細に描かなければいけない。

４．彩色

景観の部品の一つ一つは同じ色で埋め尽くされているなんてありえない。面白みも何もないので、違った色、グラデーションに気遣う。

雲の彩色

水をたらして雲の領域を湿らせる。ハイライト（白）にする部分は水をたらさない。湿っているうちに雲を色付け。

木の彩色
時期にもよるが緑色ではのっぺりした作画になってしまう。小生はピンクの濃淡で木を描く。この絵だけでも買ってくれそうな感じの絵となろう。その後色々の緑を作り出していく。色の調合は、赤＋青＋黄＋白＋黒の５色で８の５乗色（各色８段階の濃淡として３万３千色、各色２５６段階の濃淡とする場合は１兆色）の組み合わせがあるはず。３原色をつかわず普通の色を使う場合でもその組合わせは無限。

その他
道具入れ
防水仕様を自分で組み立てる・・スケッチブックはビニールシートにすっぽり収めよう、鉛筆は筆箱に、絵具などは専用のケースは２重のチャックがある袋に、筆、パレット、水入れはセットで袋に。水はペットボトルを使い、飲用兼用にする場合は１本。別々にする場合は２本。これらを入れるバッグ一つ持てば、もうどこにでも行ける。小生はスマホ(地図が出せるもの)にコンパス(アプリで代用することができるが、本格的な登山用が役立つ)。

チッシュは必須・・彩色時余分の絵具をふき取る、滲みをふき取る。パレットの濡れをふき取る、水入れをふき取る、筆をふき取る・・・あらゆる場面で大活躍　（トイレットペーパは不可　腰が弱すぎて使えない）